



す。さらに、緊急通報装置の設置にも取り組んでいます。

現在、さまざまな相談に対して、健康福祉課の地域包括支援センターを中心に、その方に何が一番適しているのか、相談して提案しています。今後も、きめ細やかな支援を行ってまいります。

### ■空き家対策について

**Q** 集落の整理という観点から、空き家の利活用がある。空き家バンク関係の支援などを行っていただいているが、利活用できないレベルの危険空き家が出てきている。獣が巣をつくっている状況もある。危険な状態の空き家をつくらないための支援というのはどのようなことを考えているのか。

**A** 空き家の利活用については、空き家バンクを空き家対策ネットワーク協議会で運営し、ホームページや町報で登録を募っています。それでも活用できる空き家があるのに、登録されていないことも見受けられるので、漏れがないように、皆様から情報をいただけるような

手段をとっていかなくてはならないと考えています。

危険空き家については、数年に1回調査を行い把握するようにしています。建築士に診断していただき、特定空き家等に認定されれば管理や解体をしていただけるように所有者にお願いしている状況です。

### ■鳥獣対策について

**Q** 近年、毎年のように鳥獣の被害が出ているが、どのように対策し、防止していくのか教えていただきたい。

**A** 鳥獣被害対策として取り組んでいるものとして、田畑を守る電気柵の設置にかかる費用の支援を行っています。県の補助事業に加え、町独自の事業も行っています。基本的に販売農家の方々向けに行っていた支援事業になりましたが、2年前から自家用菜園の方にも、上限を1万円として支援を行っています。

また、猟友会の方々と協力しながら、罾の設置、駆除というような部分も根気強く取り組んでいます。ただ、増えるスピー

ドが速く、なかなか減らないといった課題もあるのが現状で、山から人里に降りてこないようにするためには、人の住むところだと区別ができるようにする必要があるので、様々な機会を通じて、草刈りなどの呼びかけを行っています。クマは、採り残しの柿などを食べに来る可能性があるので、採り残さないようにする、残飯などは放置しないようにするなど呼びかけも行っています。ただ、野生の動物なので、コントロールできずに苦労しているということもご理解をいただきたいと思えます。

### ■幹線道路の整備について

**Q** 国道348号線の今後の構想や、西廻り幹線道路の今後の見通しについて町としての考えをお聞きたい。

**A** 国道348号線については、平成4年の国体に合わせて整備され、置賜と山形をつなぐ幹線道路として完成しました。それ以来利便性も向上し、交通量も増えましたが、急峻で急カーブが多いため、事故が絶えない状況です。

また、土砂崩れの復旧工事を行ったということもあり、そういった課題解決のため、令和3年10月に国道348号線整備促進期成同盟会を設立しました。これから新たなルートで高規格化の整備を目指し、国や県への要望活動、地域の皆さんへの啓発活動を行っていきたくと考えています。

西廻り幹線道路については、これまでの運動から着実に前進してきていると思います。様々な問題がありますが、今後も町として積極的に活動していきたいので、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

掲載した内容のほかにも、林業再生に向けた取り組み、境界明確化、デジタル推進への取り組みなど、幅広い分野にわたって意見交換を行いました。

いただいた意見をまとめたものは企画政策課及び各地区コミュニティセンターでご覧いただけます。また町のホームページでもご覧いただけます。



＼ たくさんのご意見ありがとうございました！ ／

# まちづくり座談会

令和3年11月1日から12月21日にかけて、感染症対策を徹底しながら各地区コミュニティセンターにおいて令和3年度まちづくり座談会を開催しました。6地区で合計205人の方にご参加いただきました。

今年度は、「白鷹町過疎地域持続的発展計画とこれからのまちづくり」をメインテーマとし、皆さんからさまざまなご意見をいただきました。ありがとうございました。このたびいただいたご意見は、今後の町政運営に反映させていただきます。ここでは、皆さんからいただいたご意見の中から主なものをお知らせします。

【問い合わせ】企画政策課情報係 ☎ 85-6121

■人口減少に伴う、今後のまちづくりについて

Q 想定以上の人口減少を踏まえて、人口が減っても安心して暮らせる地域づくりの在り方を町としてどのように考えているのか。

A 人口減少については、日本全国で起きており、その中でも地方で特に加速化していることを認識しています。

白鷹町のまちづくりの考え方の中心として、コンパクトプラネットワークがあり、荒砥、鮎貝の中心地域に様々な分野で利便性が高く拠点となる施設や、医療、福祉、産業等の活性化につながる施設を集中的に整備し、デマンドタクシーなどの公共交通をフル活用しながら周辺の地域とネットワークをつないでいくことを目指しています。その中で、各地区の拠点となるのがコミュニティセンターであると捉えており、今後、機能的な強化を図っていく施策が必要であると考えます。

■白鷹町の産業振興、働く場所づくりについて

Q 若者が働く場所を求めて、町外へ転出することが多くなっていると感じる。またそれが、町の少子化と人口減少に拍車をかけているように感じる。そこで、働く場所の提供を優先的に考えた施策はないか。また企業立地促進も重点的にやっていたきたい。

A 2015年の国勢調査では、就業者人口が約7千人で、4割が町外、6割が町内で働いているというデータがあります。2010年と比較しますと、やや町外へ働きに出る人は増えていますが、おおよそ横ばいであると認識しています。

町としては、企業誘致などで新たに働く場所をつくるというよりは、現在、白鷹町にある企業を支援し、そのなかで規模を拡大していただくことへの支援を行っています。

コロナ禍で、全国的に企業は厳しい状況にあります。特に従業員を抱える事業所がかなり苦しい状況であると理解しています。新たに企業を誘致することも考えていかなければなりません。新しい業種が町外へ出て行った方にとって魅力的かを、今後の課題として考えていかなければならないと感じています。

を、今後の課題として考えていかなければならないと感じています。

■高齢化が進むなかで、高齢者に対する町の取り組みについて

Q 高齢化が進むなかで、高齢者が安心して生活するために、どのような取り組みを行っているのか。

A 高齢者世帯への支援、安全の確保について、直接的、間接的な支援というところでは、各地区の民生委員による見守りや、各地区の役職員の方から情報をいただき、支援等が必要なる方の把握に努めています。特に75歳以上の単身高齢者宅を訪問し、救急隊が到着した時にわかるような、緊急時の連絡先等が入った救急医療情報キットを配布しています。

また、介護保険サービスを利用している方については、ケアマネージャーにお願いして様子を伺っています。最近では、コロナの影響でなかなか訪問できないため、職員が電話による日常生活の聞き取りを行っています。